

令和4年度 第2回浜松市医療的ケア児等支援協議会

日時：令和5年2月28日（火）

午後2時から

会場：浜松市口腔保健医療センター会議室 A・B

ZOOMID：832 4673 6759

パスコード：hama0228

次 第

1. 開会

2. 議題

(1) 医療的ケア児等支援コーディネーター活動実績報告 資料①

(2) 災害ワーキング報告 資料②

医療的ケア児等大規模地震訓練報告

(3) 令和4年度医療的ケア児等支援者養成研修報告 資料③

(4) 地域生活拠点等整備について 資料④

(5) その他

令和4年度医療的ケア児を持つ保護者への意見を伺う会について

令和5年3月10日（金）10時～12時 ZOOM開催

【意見交換】日常生活を送る上で困っていることについて

3. 閉会

浜松市医療的ケア児等支援協議会 委員名簿

外部委員

(敬称略)

	所 属	氏 名	備 考
	浜松医科大学	福田 冬季子	
	聖隷クリストファー大学	宮谷 恵	ZOOM
	浜松市発達医療総合福祉センター はままつ友愛のさと	遠藤 雄策	
	聖隷福祉事業団 聖隷こども家庭総合支援センター	大木 茂	
	浜松市訪問看護ステーション連絡協議会	尾田 優美子	
	介護療院有玉病院	岡崎 貴宏	欠席
	県立西部特別支援学校	三上 英	ZOOM
	総合病院 聖隷三方原病院 聖隷おおぞら療育センター	沖村 宏美	ZOOM
	浜松地区肢体不自由児親の会	里 あゆ子	
	在宅医療ケアのある子を持つ親の会	清水 恵美	
	浜松市中障がい者相談支援センター	藤川 晴海	
	指定障害児相談支援事業所くすのき	古橋 清史	
	浜松市障がい者基幹相談支援センター	雨宮 寛	

庁内委員

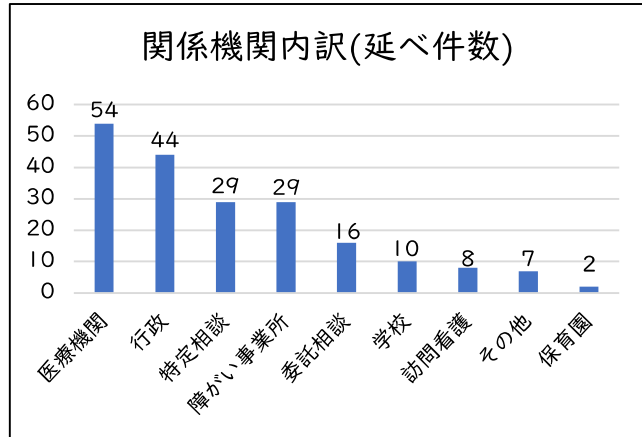
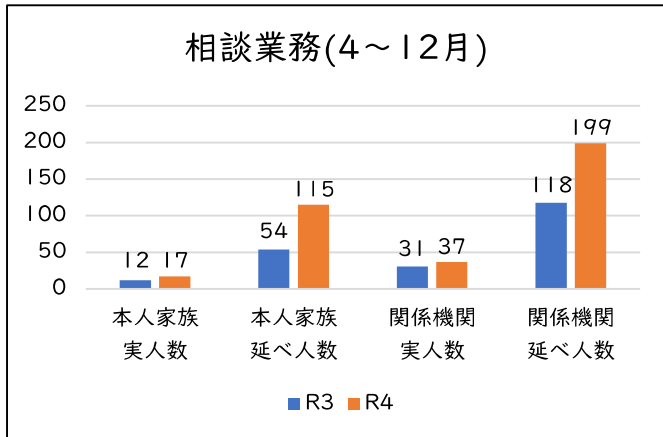
	課 名	氏 名	備 考
学校教育部	指導課	島田 一孝	ZOOM
健康福祉部	健康増進課	平野 由利子	
こども家庭部	幼児教育・保育課	松下 直樹 (代理:井川 宜彦)	
こども家庭部	子育て支援課	小山 東男	
健康福祉部	健康医療課	島 和之	

事務局

課 名	氏 名	備 考
浜松市社会福祉事業団	阿部 祥美	
	尾関 ゆかり	
	宮司 登志江	ZOOM
健康福祉部 障害保健福祉課	久保田 尚宏	
	柴田 多美子	
	中尾 聡子	

浜松市医療的ケア児者等コーディネーター実績報告(R4.4月～12月)

I 相談実績



(相談内容)

本人・家族、関係機関からの相談内容は共に、「家族支援」「保育・教育」「見通所」の順で多い結果であった。「家族支援」の相談は全体の4割を占め、複数の相談項目が重複している状況にある。医療的ケア児者であることで、生活に制限がかかると感じることや疾病の受けとめの不安定さに加え、家庭背景として外国籍、シングル家庭、ワンオペ家庭、保護者疾患、きょうだいの疾患や障がい、経済的な不安など複雑化している家庭が少なくない。また、高校卒業後の就職や進路先に関する相談も含まれている。

「保育・教育」「見通所」に分類される相談は、母の復職希望による医療的ケア児が日中過ごす場所についての相談が「保育・教育」「見通所」相談の8割を超えている。

2 その他の業務

医療的ケア児者等名簿登録の管理	新規7件、更新5件
医療的ケア児等支援者養成研修会の開催	全3回実施 10月20日 100名参加 10月26日 79名参加 11月 9日 36名参加
医療的ケア児等の家族との意見交換会の開催	2回実施(令和5年3月実施予定)
参加した会議	災害ワーキング 浜北天竜エリア連絡会課題部会 西遠地区特別支援学校の進路の先生との意見交換会 浜松市医療的ケア運営協議会(教育委員会) 自立支援協議会企画会議 事務局会議
地域体制づくりに繋がる連携、相談	教育委員会・訪問看護との相談 →看護師研修会開催 厚生会、静岡県医ケアセンター、フォーリア 薬局との意見交換 浜松医大、浜松医師会、MSW協会ご挨拶

3 お互いの看護を知って繋がろう研修報告

日 時：令和4年7月25日(月)13：40-17：00 ZOOMオンライン研修
 内 容：NICU、訪問看護、児童発達支援、学校、放課後等デイサービス看護師から実践発表
 参加者：45名 アンケート回収31名(69%)

参加職種：看護師29名、助産師1名、保育士1名

研修の満足度：良かった21人、まあまあ良かった7人、普通3人

〈研修の感想〉

- ・医ケアの子達が関わるいろいろな立場の方の話が聞いて良かった
- ・普段接せることのないそれぞれの分野で、どのような看護をしているのかよく知ることができた
- ・同じ看護師でも分野が違えば知らないこともたくさんあると分かった
- ・児のライフステージに沿った看護の関わり方の流れが理解できた
- ・どの分野の看護も家族支援を大切に関わっていることがわかった
- ・生まれてから成長する児に対してそれぞれの分野での看護師の役割、そして思いがあって、それを次の段階にバトン回していく、その重なり・連携が今まで以上に必要であると感じた

4 実績から考えられるニーズと課題

	ニーズ	課題
本人・家族 当事者家族	相談内容が多岐にわたる中でも、保護者に求められる役割が多い特別支援学校について、「医ケア児であることでバス通学ができないこと」「送迎時の保健室チェック」「新学期当初の医ケア待機期間」「校外学習や実習時の付き添い必須」である状況について、保護者が担っている役割の軽減の検討を希望。	現在、浜松市教育委員会と一緒に医療的ケア児の学校生活について取り組みができています。今後は特別支援学校についても連携体制の構築が必要。
看護師	病院、訪問看護、保育園、児童発達支援、学校、特別支援学校、放デイ、生活介護、就労など、看護師が活躍している分野が広がってきている。多岐にわたる分野の看護内容の理解、また1人の医ケア児者についての支援のバトンタッチがスムーズでない現状のため、各分野の看護師同士が縦横に繋がりたい。	今年度初めて「お互いの看護を知って繋がる」研修を実施し、参加した9割以上が今後も研修を継続して受けたいと希望があった。コロナ禍での研修開催のためオンラインでの研修実施となった。今後は、顔の見える関係の構築やお互いの分野の施設見学、事例検討などを通し、縦横の関係を深め、医ケア児者のバトンタッチをスムーズに行えるような連携体制の整備が必要。
園・児通所	モデル事業として保育園での医ケア児の受け入れを開始し、安心安全に預かれるよう看護師の確保や検討会を実施。保育現場の声として受け入れへの不安、看護師の雇用状況も考えると今後の医ケア児の受け入れについては慎重に検討が必要。	共働き世帯が64%を超えている現代では、日中の通所、通園、通学先の確保は保護者のニーズは高い。保護者の離職防止の支援、医ケア児の養育支援は問題が多岐にわたる家族支援に繋がりに、重要な課題といえる。保育園、こども園、幼稚園、児童発達支援など複数の関係機関が、医ケア児等家族を支えることができるような整備が必要。
災害時・緊急時	災害時の自宅避難時の関係機関との連絡方法の確保、登録制の福祉避難所の確保の希望。 緊急時(介護者の病気やケガ等)の医療機関や受け入れ事業所の確保。	今年度実施した災害ワーキングを通して、災害時体制の現状確認をする中で、災害時個別支援計画の見直しの必要性を確認。医ケア児者の実数把握と災害時個別支援計画の連動について検討中。災害時、緊急時を含めて、医ケア児者が利用できる事業所や医療機関との連携強化につながる地域体制づくりの構築が必要。

令和5年2月28日 医療的ケア児等支援協議会

医療的ケア児等災害ワーキング

1. 目的

日常的に医療を必要とする人たちの災害時の支援について検討する

2. 開催期間

令和4年5月～令和5年2月

3. 構成員

大木 茂（聖隷こども家庭総合支援センター）、杉浦 弘（聖隷浜松病院）、
 遠藤 雄策（はままつ友愛のさと診療所）、尾田 優美子（訪問看護ステーション連絡協議会）
 雨宮 寛（浜松市障がい者基幹支援センター）、篠ヶ瀬 信行（聖隷おおぞら療育センター）
 森田 能行（西・南障がい者相談支援センター）、稲川 秀子（学校教育部指導課）
 （事務局）
 阿部 祥美（医療的ケア児等コーディネーター）、尾関 ゆかり（相談支援事業所シグナル）
 柴田 多美子（障害保健福祉課）、中尾 聡子（障害保健福祉課）

4. 活動内容

開催日	内容
第1回 令和4年5月10日	・各施設における災害時計画について ・災害時個別支援計画について
第2回 令和4年6月16日	・安否確認システムについて ・安否確認や必要な支援の集約について
第3回 令和4年7月13日	・災害時の医療との連携について ・内閣府防災訓練（10月1日開催）について
第4回 令和4年8月23日	・災害時対応フローについて ・医療的ケア児等大規模地震訓練シナリオについて （内閣府防災訓練に併せて実施）
第5回 令和4年9月16日	・救助要請先や避難場所の整理について ・医療的ケア児等大規模地震訓練での役割について
令和4年10月1日	医療的ケア児等大規模地震訓練実施
第6回 令和4年11月1日	・医療的ケア児等大規模地震訓練振り返り 訓練で見てきた課題について
第7回 令和4年11月29日	・安否確認システムの稼働方法について ・安否情報への対応について
第8回 令和5年1月31日	・災害時個別支援計画及び医療的ケアに関する情報提供書兼同意書の一体化について
第9回 令和5年2月17日	・災害時の支援体制についての整理 ・災害時支援体制整備に向けての今後について

5. ワーキングで見えてきた課題と今後について

- ①課題：・発災時に医ケア児者への確実な情報伝達が行えるか。
 ・SOSの振り分け方への指標がなく支援の必要性や優先順位を判断できない。
 ・受け入れ場所や、受け入れ場所まで移動する方法や移動経路が確保できるか。
- ②今後について：災害時支援体制の整備として令和5年度より新たなワーキングを検討
 ・医療的ケア児者からのSOSについて振り分け方法の検討
 ・医療的ケア児者からのSOSへ対応する支援側の体制整備について検討

医療的ケア児等大規模地震訓練 報告

報告者：生活・就労支援グループ中尾

訓練日：令和4年10月1日（土）

※内閣府と厚生労働省等及び想定被災県（静岡県、愛知県、三重県、和歌山県）における訓練に合わせて実施

訓練概要 A. B. C3つの事例を通して①②の訓練を実施。

【事例A】電源確保のみの支援が必要なケース

➤実際に移動支援を実施

【事例B】人工呼吸器破損により、人工呼吸器のある施設（医療）への移動が必要なケース

➤静岡県小児周産期リエゾンへ支援要請

【事例C】安否確認への回答がなく、相談支援事業所による安否確認が必要なケース

①情報共有システムを用いた情報伝達訓練

安否確認システム、浜松市防災情報システム、LINEWORKS

②相談支援事業所による福祉避難所への移動支援調整

訓練目的

①情報共有システムを用いた情報伝達訓練を行うことで、情報がどのように伝わっていくのかを検証し、課題の把握・整理を行う。

②実際に医療的ケア児者の対象者に災害時の移動支援を行うことで、発災時に想定される避難行動の確認をし、課題の把握・整理を行う。

関係機関

- ・相談支援事業所「シグナル」：移動支援調整要請
- ・福祉避難所「浜松市発達医療総合福祉センター」：移動支援対象者の受け入れ要請
- ・静岡県小児周産期リエゾン：救助対象者への支援要請
- ・基幹相談支援センター：未回答者の代理回答
- ・災害対策本部警備部：浜松市防災情報システムへSOS要請入力（入力のみ、対応依頼なし）
- ・総務調整G：福祉避難所業務担当（訓練時の開設要請は生活・就労支援Gで代理対応）

訓練結果

○訓練時間

訓練開始：9時30分 一斉メール送信、訓練終了：12時00分 一斉メール送信

○安否確認システムでの回答状況（事前予告あり）

一斉メール送信 96件 訓練終了時回答数 56件 →回答率 58.3%

○ケース訓練結果

事例A：福祉避難所への移動支援完了

事例B：小児周産期リエゾンからDMATの対応へつながり対応完了

事例C：代理回答で対応完了

○課題

①システムに関することについて

安否確認システム：回答一覧から支援の優先順位をつけることが困難。

障害保健福祉課のみでの対応は困難。対応できる人が不足している。

使い方に不慣れで使いにくい。

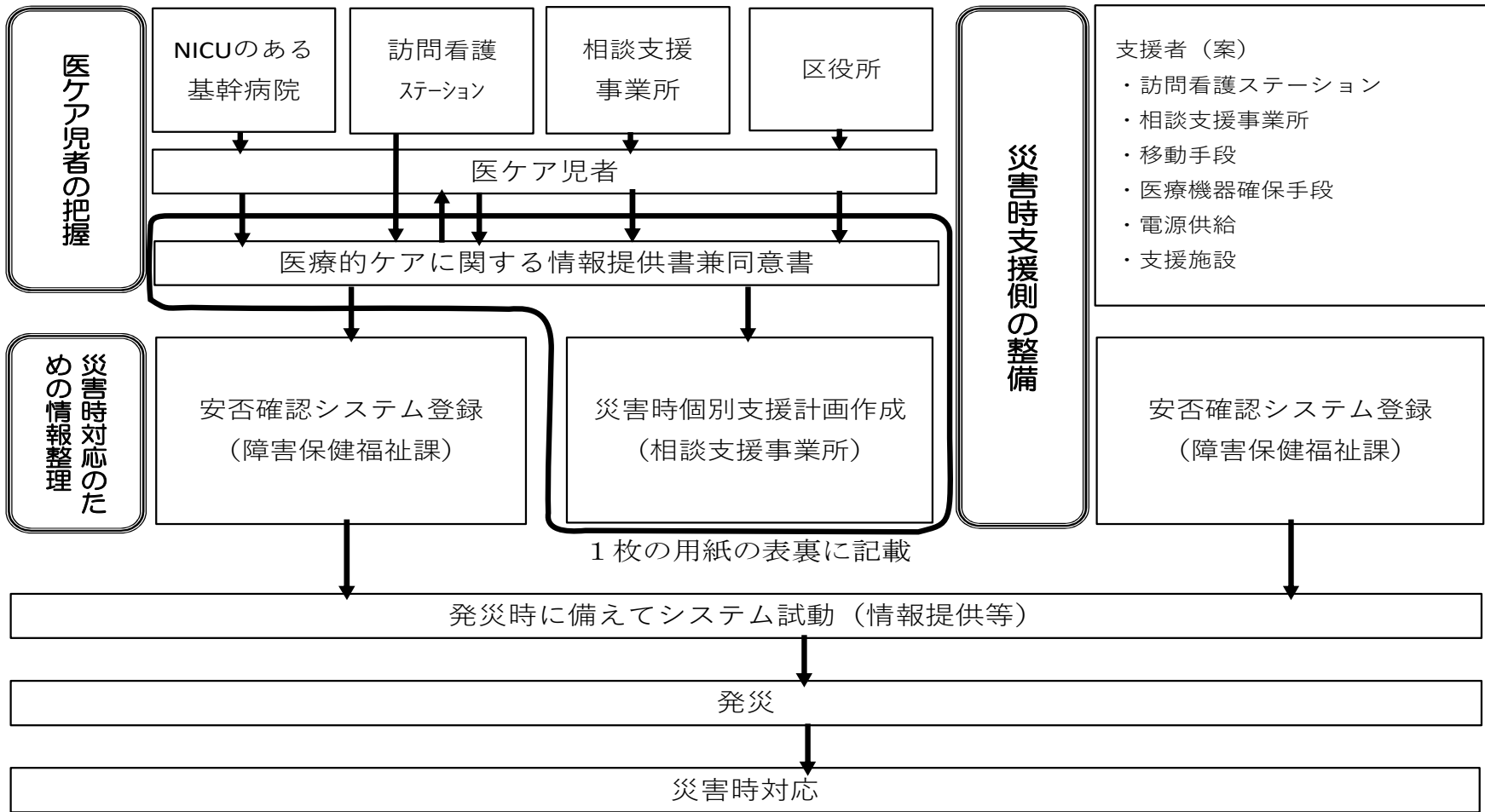
既読機能がないため個別メッセージの回答に不安がある。

浜松市防災情報システム：消防（警備部）への要請が遅れないよう調整が必要。LINEWORKS：投稿や投稿に対する質問が埋もれてしまい対応が難しい。

②未回答者への対応について検討できていない。

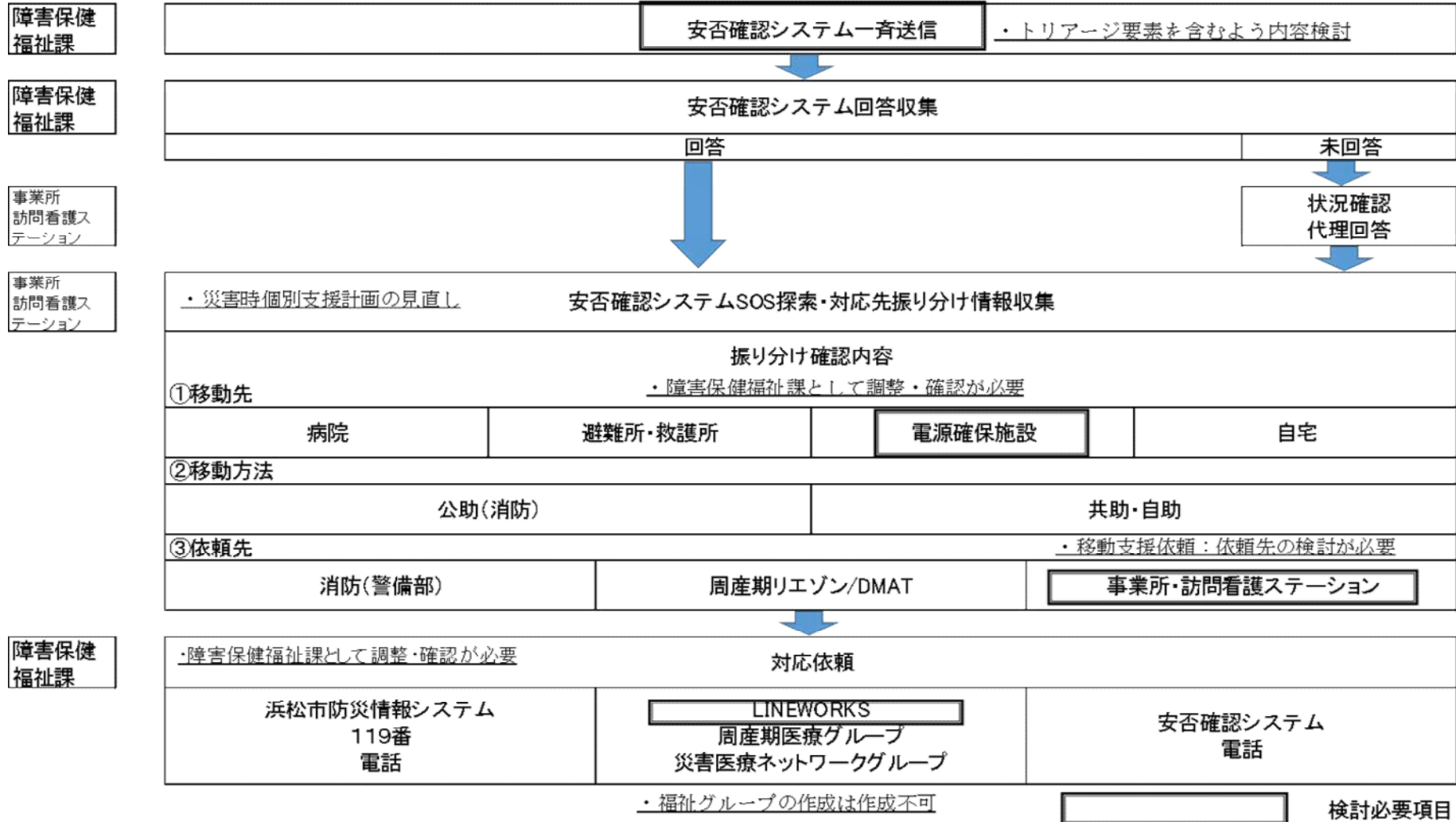
③移動先があっても移動する方法が不足している。

災害時支援体制イメージ図（案）



※1 訪問看護ステーションからは訪問看護情報提供書が送付されるため、障害保健福祉課から医療的ケアに関する情報提供兼同意書を送付し返送

災害時SOS対応イメージ図（案）



令和4年度 浜松市医療的ケア児等支援者養成研修 アンケート結果について



浜松市 障害保健福祉課

研修内容

日程	内容	講師
10月20日	てんかんへの対応	友愛のさと診療所 遠藤 雄策医師
	医療的ケア児等コーディネーターとは？	浜松市医療的ケア児等コーディネーター
	医療的ケア児等の看護の実際	聖隷浜松病院 小児看護専門看護師 高 真喜氏
10月26日	児童期の医療的ケア児を知り支援を考えよう	当事者家族 岡本 綾氏 佐鳴台保育園 園長 清水 幸枝氏 看護師 荏原 可奈子氏
	発表者による医療的ケア児支援のシンポジウム	児童発達支援センター ひまわり 酒井 格子氏 放課後等デイサービス ひかりの子 白鳥 園枝氏 短期入所 聖隷おおぞら療育センター 白鳥 園枝氏
11月9日	成人期の医療的ケア者を知り支援を考えよう	当事者 石脇 将太氏 生活介護事業所 ふれんず 川合 由美氏 生活介護事業所 あすなる 三品 公香氏
	発表者による医療的ケア者支援のシンポジウム	就労支援事業所 はばたき 堀内 剛氏 就労移行支援事業所 アクセスジョブ浜松田町 高橋 繭子氏

参加人数と内訳

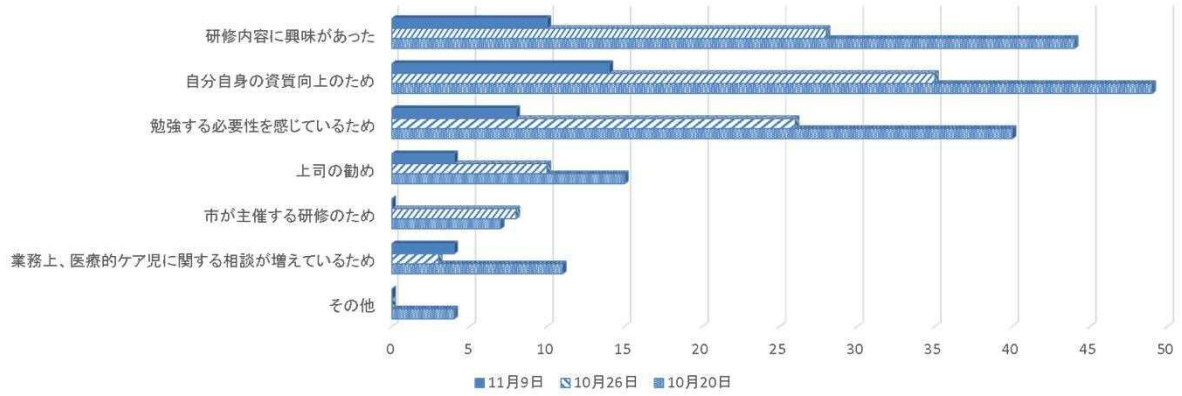
参加人数(実)140人、参加人数(延)215人

日程	相談 (委託相談、 計画相談)	サービス事 業所	教育 (養護教諭、 学校看護師)	保育 (幼稚園、保 育園)	訪問 看護	健康 づくり課	社会 福祉課	その他	合計
10/20	15	20	15	41	2	3	3	1	100
10/26	14	15	9	36	0	1	2	2	79
11/9	10	11	5	6	2	0	1	1	36
合計 (延人数)	39	46	29	83	4	4	6	4	215

受講アンケート結果

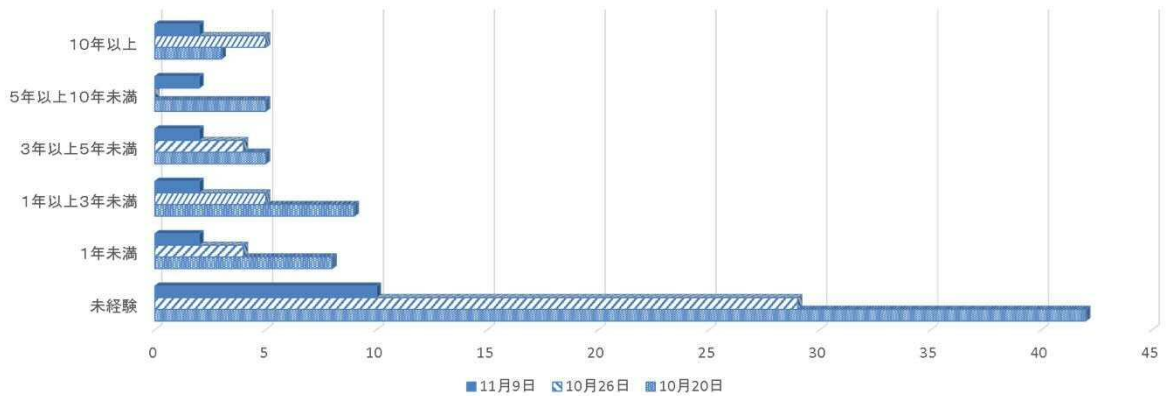
日程	受講者数	回収数	回答率
10月20日	100	72	72.0%
10月26日	79	47	59.4%
11月9日	36	20	55.5%

受講理由(複数回答可)



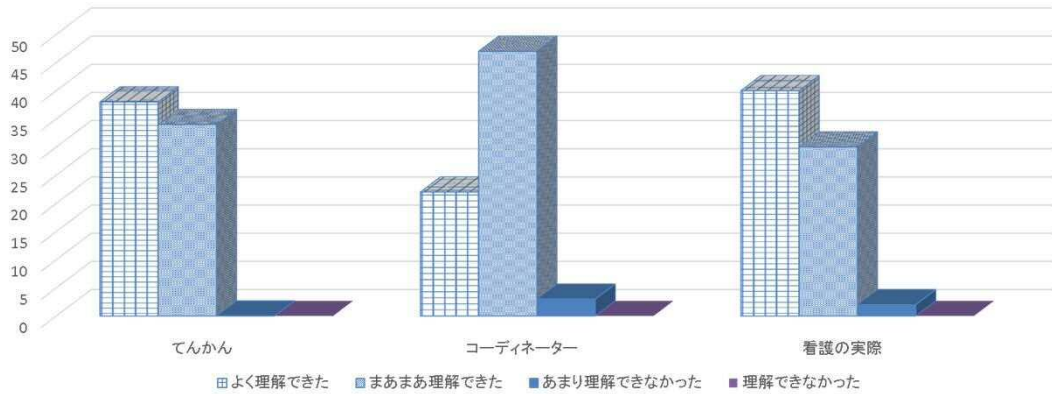
	研修内容に興味があった	自分自身の資質向上	勉強する必要性を感じている	上司の勧め	市が主催する研修のため	業務上、相談が増えている	その他
10月20日	44	49	40	15	7	11	4
10月26日	28	35	26	10	8	3	0
11月9日	10	14	8	4	0	4	0

経験年数



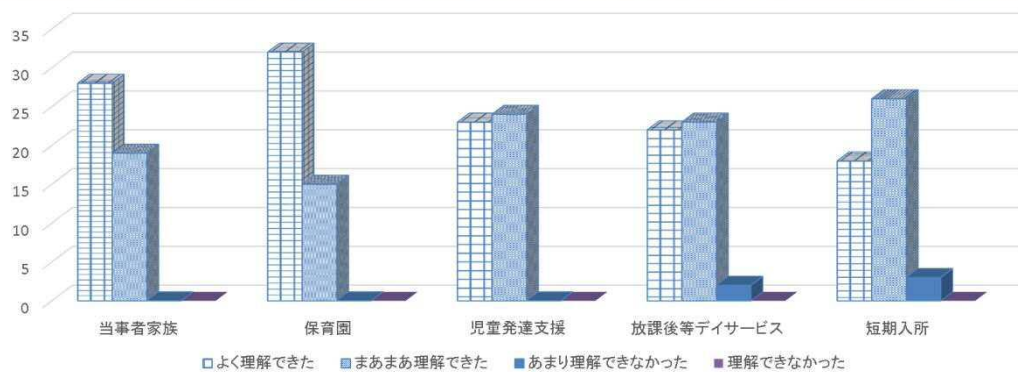
	未経験	1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上
10月20日	42	8	9	5	5	3
10月26日	29	4	5	4	0	5
11月9日	10	2	2	2	2	2

10月20日研修の理解度



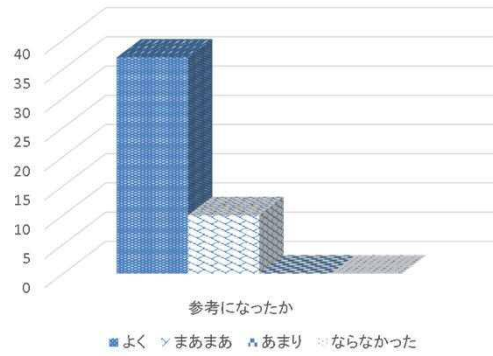
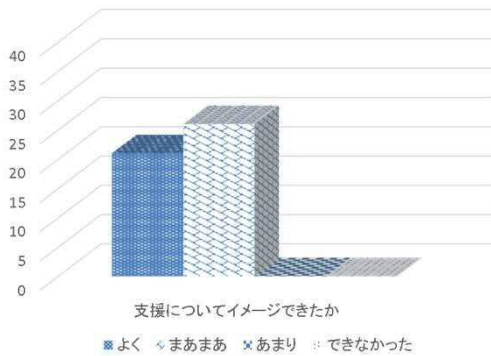
	よく理解できた	まあまあ理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった
てんかん	38	34	0	0
コーディネーター	22	47	3	0
看護の実際	40	30	2	0

10月26日研修の理解度①



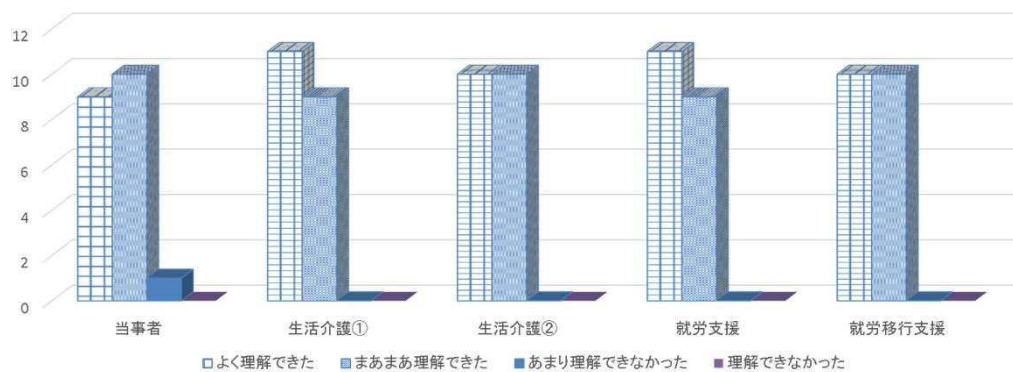
	よく理解できた	まあまあ理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった
当事者家族	28	19	0	0
保育園	32	15	0	0
児童発達支援	23	24	0	0
放課後等デイサービ	22	23	2	0
短期入所	18	26	3	0

10月26日研修の理解度②



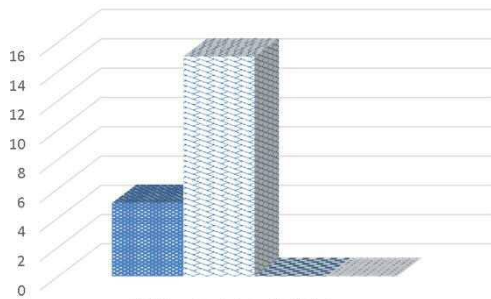
支援についてイメージできたか		参考になったか	
よくイメージできた	21	とても参考になった	37
まあまあイメージできた	26	まあまあ参考になった	10
あまりイメージできなかった	0	あまり参考にならなかった	0
イメージできなかった	0	参考にならなかった	0

11月9日研修の理解度①

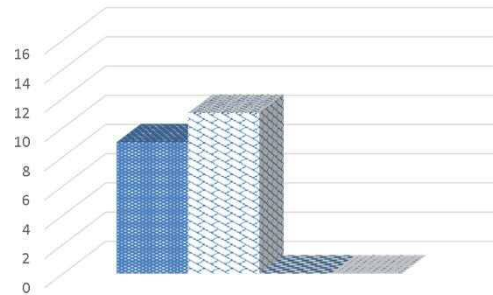


	よく理解できた	まあまあ理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった
当事者	9	10	1	0
生活介護①	11	9	0	0
生活介護②	10	10	0	0
就労支援	11	9	0	0
就労移行支援	10	10	0	0

11月9日研修の理解度②



支援についてイメージできたか
 ■よく ◀まあまあ ✕あまり ∷できなかった



参考になったか
 ■よく ▶まあまあ ▲あまり ∷ならなかった

支援についてイメージできたか		参考になったか	
よくイメージできた	5	とても参考になった	9
まあまあイメージできた	15	まあまあ参考になった	11
あまりイメージできなかった	0	あまり参考にならなかった	0
イメージできなかった	0	参考にならなかった	0

保育分野 意見・感想

- 医療的ケア児の生活の様子や支援の仕方など分かりやすかった。受け入れに大変なイメージがあったが、工夫ややり方次第でみんなと同じことが出来ることもあるということを知り、考え方が変わった。
- まずはその子自身を知ることから始まり、保護者との関係性、関わる職員の情報共有の重要性を学ぶことができた。
- 当事者家族の現実がわかり、医療的ケアの必要性を強く感じた。また、実際に預かっている園の話も聞いて、どんなことを大事にすれば良いのかイメージをもつことができた。
- 医療的ケア児等の支援と言っても、支援を必要としている人によって、必要な支援の内容が異なるため、ひとりひとりに合わせた支援が大切になることを学ばせて頂いた。
- てんかん発作の映像や具体的な物品を使った実演のおかげで、自分事として理解が深めることができた。
- 今回の研修で初めて医療的ケア児等コーディネーターという名前を聞いたが、医療的ケアが必要な子やその家族が社会生活を送るために、とても重要な役割を果たすことがわかった。

教育分野 意見・感想

- 学校で受け入れる際に、知識として知っていなくてはならないことを学ぶことができた。昨年度から2度目で、貴重な研修の機会を持てることで、知識は増えていると思う。
- 医療ケアコーディネーターさんの話を聞いて、医療ケア児の受け入れに至った流れ、目的やこれからの展望も知ることができ、その一員として協力していきたい気持ちになった。
- 医療ケア児は特別ではないという考えをもとに当事者御家族と事業者、教育機関等と話し合い意見を擦り合わせていくことが、今後の共生のあり方に役立つのではないかと思った。
- 当事者が生活の中で、自分の身体の変化を受け入れながら、医療的ケアと共に仕事をされている姿を知ることができた。小児の医療的ケア児の方々が、成人となり就労し、生きやすい世の中が続いてほしいなと思った。
- いつも頑張っているお母さん、やればなんでもできてしまうお母さんに、頼っていいという場を作る、そんな声かけができたらいいなと思った。
- 当事者家族の思いや、医ケア児の実際の生活を知ることができた。厳しいご意見もあり、看護師としてどのような関りが求められているのかと、考えるきっかけとなった。

看護・保健分野 意見・感想

- てんかんの内容を整理することができた。また実際に動画をみることで、てんかんの症状の違いをより理解が深まったと感じる。
- 医療的ケア児の支援の課題で、地域連携、他職種連携、緊急時の病院連携の大切さを学んだ。
- 就労移行支援についてとても参考になった。利用者さんにもご紹介できると思う。
- 医療的ケア児の生活や利用できる福祉サービス等はイメージできていたが、受け入れ先の少なさや学校待機の長さなど、思っている以上に大変な部分が多く、また課題でもあったと感じた。
- 医療的ケア児を支援していく中で事故や急変などやはり怖いと思うことがあるが、保護者様としてはそんなにこわがらず一緒に活動を工夫して参加してほしい気持ちも知ることができ、連携をとり気持ちを聞きながら一緒に考えていくことが大切と再認識できた。

相談支援分野 意見・感想

- てんかんについて実際の様子を見せてもらいながら知ることができた。おきた時にどの点を注意して見たらよいか分かった。医療ケアの実際を見たことがないものもあったのでデモをしていただいてイメージがもてた。
- 親御さんにとっては普通のケアであるが、支援機関側は個々に違うケアを行っていく必要があることから、相互のすり合わせはとても重要であると理解した。また、緊急時の対応は当然ながら、そこに至らないようにケアマニュアルを親御さんと作り上げる必要性も知ることができた。
- 医療的ケア児だからとしりごみすることなく、様子を丁寧に聞くこと、保護者や関係機関とのコミュニケーションが大切だと感じた。
- 当事者の方の言葉から、支援機関を本当に信頼し、その支援に満足し、生き生きした日々を過ごされていることを聞き、関係性の重要性、またその信頼を得るための支援の構築が重要とあらためて感じた。
- 福祉サービスから見たお話しが聞け、家族、医療との連携が必須であることであるとともに医ケアは生活の一部として受け止めた支援を行っていくことが必要だと学んだ。

研修に関する意見や感想

- 実際にやってみないとわからないこともあるので、実践的に訓練をしてみたい。
- 看護やケアの実際の方法を動画で教えていただけると良いと思います。
- 実物を見たり、触ったりしながら、症状に合わせた一つ一つの使い方やどういう目的であるかの説明をしていただく機会が欲しい。
- 定期的に同じ内容でもしてほしい。
- 手技そのものではなく、様々な施設で困っていることや家庭や学校でのトラブルについて共有したり、工夫していることなど具体的な話をもっと聞きたかった。
- もし、受け入れることになったら、受け入れ前に実際に現場を見せていただき勉強させていただきたいと思う。
- 具体的なケア内容、ビデオ等で支援している所をみてみたい。
- 当事者の方のお話を聞けるのは、とても貴重なことだと思う。今回、残念ながら、話す内容がほとんど聞き取れなかった。zoom研修だったことが本当に残念でした。

今後の研修で聞いてみたい内容

医療的ケア児について

医療的ケア児の心のケアについて

医療的ケア児のケアについての実技研修

その他

同じ内容で研修をしてもらいたい

医療的ケア児等コーディネーターの
具体的な相談事例

医ケア児の就園や就学、園や学校での対応について

医療的ケア児を受け入れるに
あたって準備すること
(具体的な書類や手続き)

1日の具体的な支援の流れ

医療職ではない支援者として
できること、気にかけては
いけないこと

周りの医ケア児ではない子
との関わり方について

緊急時の対応
マニュアル等具体的な内容

トラブルへの対処方法

機関連携

機関連携の方法(連絡先、連絡方法、各機関とのつながり方等)

地域生活支援拠点等の整備



令和5年2月28日
障害保健福祉課

地域生活支援拠点等の整備



障害者等の重度化・高齢化
や「親なき後」を見据え、居
住支援のための機能を地域の
実情に応じた創意工夫により
整備し、地域全体で障害者を
支援する体制を構築



【目的】

- ① 緊急時の迅速・確実な相談支援の実施・短期入所等の活用
- ② 体験の機会の提供を通じ、施設や親元からGH、一人暮らし等への生活の場の移行をしやすい支援を提供する体制を整備

浜松市の体制

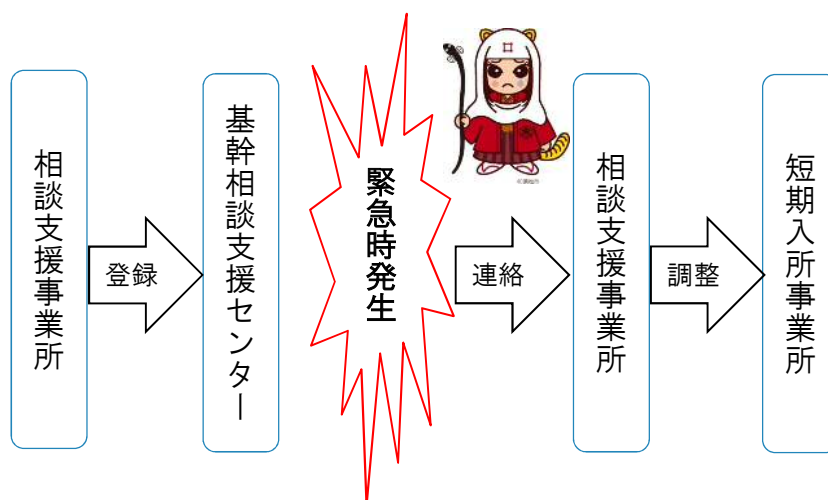


障がい者緊急時対応事業



地域で生活する障がい者が地域生活の維持が困難となる緊急事由が発生した場合に、迅速な緊急時対応を行うもの。

障がい者緊急時対応事業



ご清聴
ありがとうございました。

